

「我が国の伝統や文化に関する教育の充実に係る調査研究」 完了報告書【推進地域：学校法人津田学園】

1. 現状と課題

三重県四日市市に本部がある学校法人津田学園は、四日市市と桑名市に幼稚園を5園、桑名市に小学校・中学校・高等学校を擁する総合学園です。他にもスイミングスクール3校、スポーツクラブなどの運営を行っております。

津田学園では道徳教育を教育の柱の一つとして重要視してきました。その目標は

「先人のすばらしい生き方やその生きざまに近づこうとする」

「日本の歴史・文化・伝統を尊重する」

「人類愛の尊さや世界の人々との共生の大切さを学ぶ」

「国際社会の平和と人類の幸福に貢献する」であり、杉原千畝や松浦武四郎、八田與一などに関する道徳学習を実施し、関係者の講演会を開催してきました。

また、津田学園では、文化庁が主催する「子供のための文化芸術による子供の育成事業」を活用し、能楽、邦楽、狂言など、伝統芸能の鑑賞・体験活動（H28年度「萬狂言による狂言」・H29年度「淡路人形座による人形浄瑠璃」H30年度「前進座による演劇」）を行ってきました。まだまだ鑑賞が中心となる受動的活動の面が強いことは否めないところですが、「事前学習・調べ学習」を踏まえ「振り返り」に至るといふ一連の流れの中で、一つひとつが生徒だけでなく教員にも深い感動を与えてくれるものとなっています。

しかしながらこれらは事前学習に取り組みはするものの、鑑賞という受動的な学習活動で終結していたのではないかという反省があります。

また、道徳教育の目標は小中高では各校それなりに具体化されつつありますが、学園内の小学校と中学校のあるいは中学校と高校の連携が進んでいないのが現状です。

そのような状況の中、令和時代を迎えその語源が国書にあることで俄然万葉集が世間の注目を集めることとなりました。この機会を逃すことなく、日本の古典や伝統文化に興味関心を持たせ、学び、発表させることで受動から主体的な学びに変化させたいと考えます。ただし、そのためには一足飛びに古事記や万葉集に取り組むのではなく、三重県の偉人である本居宣長の生き方や業績を学ぶところから始めたいと考えます。

また、桑名市には5月に開催される「多度祭」、8月に開催される「石取り祭」など古くから開催されている祭があり、地域住民の一人として参加している生徒も存在します。これらの調査研究を通じ身近に存在する伝統文化の源を掘り下げ発表することで、自分自身が伝統を引き継ぐ重要な位置にいることを自覚させたいと考えます。

主体的・対話的で深い学びが求められる今、積極的に校外に出て地域の中に息づいてきた伝統や文化を学び、それらを守ってきた人々の生きざまに触れることで、地域理解や日本の歴史・文化・伝統を尊重する心が育ち、道徳心も涵養できる

のではないかと考えています。さらには学んだ事柄を中学生が小学生や高校生に、あるいは社会人に発表することが発信力の育成にもつながると考えています。

2. 実施内容

(1) 計画の概要

本学園が行っている道徳教育や古典芸能のワークショップや鑑賞も生徒一人ひとりにしてみればはるか遠い時代のものであったり、身近に感じることでできない様子が見て取れます。その原因は自分や地域とのつながりが希薄だったり、学んだことをアウトプットできていないことにあるのではないかと考えました。

そこで、研究主題を「日本の伝統や文化に誇りを持ち、偉人や地域を通して「古事記」や「万葉集」を学び、外に向かって発信できる生徒の育成」としました。

【内容】

- 1、 三重県松阪市出身の「本居宣長」を通して日本誕生の物語である「古事記」への興味関心を深めた。
- 2、 フィールドワークや調査活動で得られた内容を中学高校合同の探究活動発表会や小学校などで発表し、次への課題を見つけた。
以上2点を取り組みの柱として研究を行いました。

なお、実施した内容は次の通りです。

- (ア) 桑名の歴史探訪開催
- (イ) 國學院大學研究開発機構古事記学センター訪問研修
- (ウ) 中学校・高等学校「道徳」の時間で『古事記』『本居宣長』について学習した
- (エ) 小学校4年生では国語の時間に「いなばのしろうさぎ」について、5年生では「社会」の時間に本居宣長らについて学んだ。
- (オ) 中学生が桑名北ロータリークラブ主催の「桑名の宝物」発表会に参加
- (カ) 中二23名が「伊勢研修実施」し伊勢神宮・伊勢市内・本居宣長記念館などを訪問した。
- (キ) 中学校の探究基礎歴史グループの生徒8名が「古事記・神話」に関する発表を、津田学園小学校4、5年生を対象に実施した。
- (ク) 小学校4、5年生の図画工作で『古事記』に関する絵を制作した。
- (ケ) 道徳講演会を開催した。
- (コ) 小学生が学習発表会で「古事記」について発表した。

(2) 具体的な実施内容

類型Ⅰ	類型Ⅱ	類型Ⅲ
○		

【具体的内容について】

【2019年度】

9月8日 第1回カリキュラム検討委員会開催

協議内容

- *学校から伝統や文化に関する教育の充実についての方針説明
- *伝統や文化を継承していく上での課題点などについて協議
- *指導案の検討
- *その他

10月19日 「桑名の歴史探訪開催」

津田学園中学校の生徒が史跡を巡りながら 桑名市内の歴史について学んだことを参加した小学生に説明。

参加者 小学生 24名 中学生 16名

10月23日 國學院大學研究開発機構古事記学センター訪問

参加者 中学生 3名 高校生 2名 教員 3名

11月12日 第2回カリキュラム検討委員会開催

協議内容

- *各校で実践した取組発表
- *指導案・授業の評価
- *その他

11月から翌年2月にかけて中学校・高等学校「道徳」の時間で『古事記』「本居宣長」について学習

小学校4年生では国語の時間に「いなばのしろうさぎ」について
5年生では「社会」の時間に本居宣長らについて学ぶ

12月5日 第3回カリキュラム検討委員会開催

協議内容

- *道徳教育講演会の概要説明
- *各校で実践した取組発表
- *指導案・授業の評価
- *その他

12月7日 桑名北ロータリークラブ主催の「桑名の宝物」発表会に参加。

桑名市長賞・桑名市教育長賞・桑名市観光協会会長賞などを受賞

「桑名の宝物」主旨

「桑名の宝物」リーフレットより抜粋

『旧東海道42番目の宿場町であり、江戸時代の城下町であった「桑名」の魅力を通して、体験型のレポートを小中学生に書いていただきました。ネット情報を拾ってつなぎ合わせただけのものも多い中で、自分の足で歩き、実際に観察をして、考え、さらに資料を調べてまとめ上げた作品を選んで本日発表をしていただきます。』

作品の中には大学生の卒業論文でも通用しそうな大作や改めて桑名って興味深い街だ、と気づかせていただいた作品もありました。

発表者も含めて、多くの市民が今後も桑名に関心をもって、郷土を深く知り、桑名の魅力を世界に発信されることを願っています。』

12月11日から13日 中二 23名「伊勢研修実施」

伊勢神宮・伊勢市内・本居宣長記念館などを訪問

1月から2月にかけて津田学園小学校4,5年生の図画工作で『古事記』に関する絵を制作

1月21日 第4回カリキュラム検討委員会開催

協議内容

* 道徳教育講演会の詳細決定

* 各校で実践した取組発表

* 指導案・授業の評価

1月22日 津田学園中学校の探究基礎歴史グループの生徒8名が「古事記・神話」に関する発表を、津田学園小学校4,5年生を対象に実施

1月30日 道徳講演会実施

講師 國學院大學准教授 渡辺卓先生

参加者 中1から高1まで 301名参加

2月18日 第5回カリキュラム検討委員会

協議内容

* 「我が国の伝統や文化に関する教育の充実に係る調査研究」のまとめについて

2月22日 小学校での学習発表会で「古事記」について発表

3月17日 道徳教育推進委員会&小中連携会議合同開催

協議内容

* 成果物の検討

* その他

(3) 成果物の概要

1、研究報告書

(ア) 実践事例

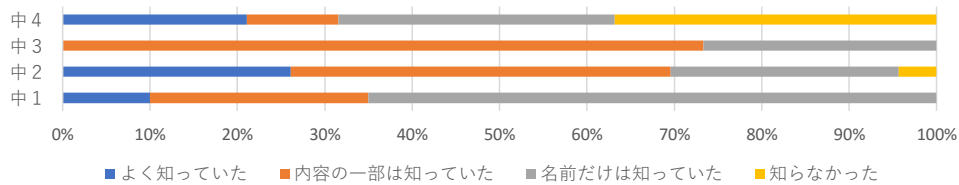
(イ) 指導案集

(ウ) 年間指導計画

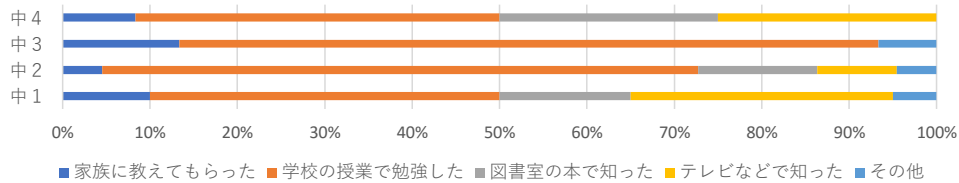
(4) 成果の検証

今回の取組に参加した津田学園中学校、小学校の生徒児童、小学校の保護者に「古事記」や本居宣長についての周知度をアンケート調査した。

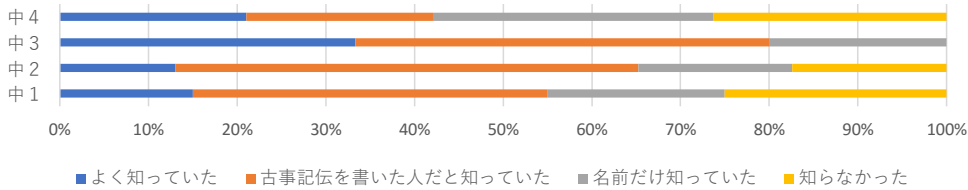
今年度の授業を受ける前から古事記について知っていたか（学年別）



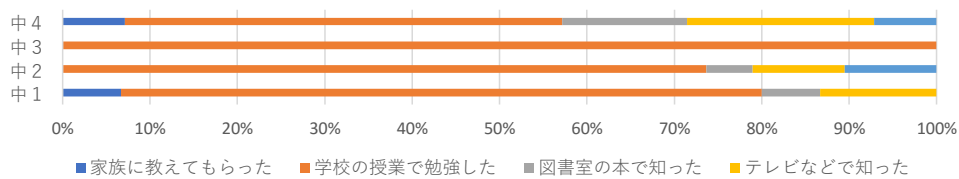
古事記を知ったきっかけは何ですか（学年別）



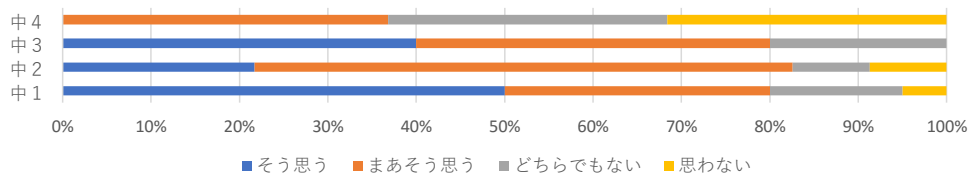
今年度の授業を受ける前から本居宣長を知っていましたか（学年別）



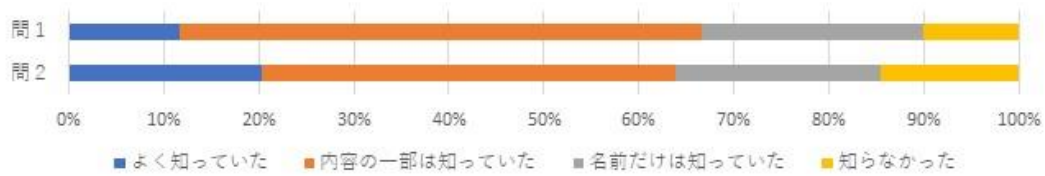
本居宣長を知ったきっかけは何ですか（学年別）



今回の学習を通じてさらに昔のお話などに興味を持ちましたか（学年別）



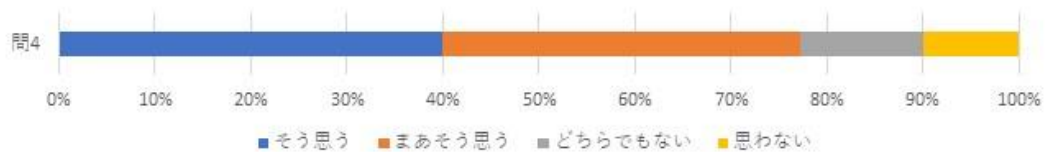
問1 今年度の授業を受ける前から『古事記』について知っていましたか
 問2 今年度の授業を受ける前から「いなばのしろうさぎ」や「やまとたける」の物語を知っていましたか（小学4，5年生）



問3 問2で知らなかったと答えた人以外に聞きます（小学4，5年生）
 「いなばのしろうさぎ」や「やまとたける」のお話を知ったきっかけは何ですか



問4 『古事記』の学習をして、もっといろいろな昔のお話を知りたいと思いましたか（小学4，5年生）



問1 昨年の夏休み以降、お子様と昔話などのお話をする機会が増えましたか（小学校4，5年生保護者）



問2 問1で増えた、少しは増えたとお答えになった方に伺います（複数回答可 小学校4，5年生保護者）



中学校（1年～4年）のアンケート結果より

- ・『古事記』についての授業を受ける前からの認知度は、学年による違いが意外に大きかったようです。それに比べて「本居宣長」についての同様の認知度はそこまで大きくなかったようで、これはやはり地域性も関係しているかと思われました。
- ・授業や夏季冬季の休暇中課題の「調べ学習」で『古事記』や「本居宣長」の基本的事項を調査し独自に集約する活動を行ったうえで「『古事記』を読むということー宣長以前・以後・現在」と題した専門家による講演につなげたことにより、特に中学学年における興味関心が深まったと思われます。
- ・中学4年（高校1年）では、『古事記』『本居宣長』以外に「渋沢栄一」「北里柴三郎」など数々の偉人をテーマに授業を行ってきたために興味関心が分散したかとも思われます。

津田学園小学校アンケート総括

【児童】

- ・「古事記について」の授業を受ける前から、「よく知っていた」または「内容の一部は知っていた」とする児童が3分の2もいたことに少し驚きました。
- ・これらの児童が「いなばのしろさぎ」や「やまとたける」といったお話を知るきっかけとなっているものは、図書室の本やテレビなどを通じてであることも分かりました。
- ・『古事記』の学習をした後、もっといろいろな昔の話を知りたいかという問いには、54名（78%）の児童が「そう思う」または「まあそう思う」と回答しました。その理由として、古事記の話そのものに対して面白いとか知りたいと感じたり、神と天皇とのつながりまで理解ができているのかは分かりませんが、神のつながりに興味を持ったりしていることが分かりました。また、『古事記』について学ぶことを通じて日本の文化を大切にしたいと考えた児童もいました。

【保護者】

- ・夏休み以降、お子様と昔話などのお話をする機会が増えましたかという問いでは、「増えた」または「少し増えた」と答えた方は、20名（3分の1）とあまり多くはありませんでした。しかし、これらのご家庭のうち、17名（85%）が「学校で学んだことを話してくれた」と回答していただいています。
- ・「古事記」について、それぞれの学年で発表会を開きました。その際に保護者の方々からは以下のような回答をいただきました。
- ・子供たちが分担して細部まで調べ、発表していたのには驚いた。お家でもパソコンを使ったり、画像も交えたりで多方面で成長があったように感じました。
- ・素晴らしい取り組みだと思います。「日本人」としての誇りを持ってもらいたいです。
- ・令和になり、令和もまた万葉集とのつながりがあり、令和の時代を生きていく子どもたちにはなかなか触れられない文化や歴史について、良い勉強になったのではと思いました。
- ・伝統・文化を学ぶことで、日本への愛情・誇りを持つ大人へと成長してくれると嬉しいと思います。
- ・探究活動を継続するとよいと感じました。

(5) 実施スケジュール

【2019年度】

9月8日 第1回カリキュラム検討委員会開催

協議内容

- *学校から伝統や文化に関する教育の充実についての方針説明
- *伝統や文化を継承していく上での課題点などについて協議
- *指導案の検討
- *その他

10月19日 「桑名の歴史探訪開催」

津田学園中学校の生徒が史跡を巡りながら 桑名市内の歴史について学んだことを参加した小学生に説明。

参加者 小学生 24名 中学生 16名

10月23日 國學院大學研究開発機構古事記学センター訪問

参加者 中学生 3名 高校生 2名 教員 3名

11月12日 第2回カリキュラム検討委員会開催

協議内容

- *各校で実践した取組発表
- *指導案・授業の評価
- *その他

12月5日 第3回カリキュラム検討委員会開催

協議内容

- *道徳教育講演会の概要説明
- *各校で実践した取組発表
- *指導案・授業の評価
- *その他

12月7日 「桑名の宝物」発表会

桑名北ロータリークラブ主催の「桑名の宝物」発表会に参加。

桑名市長賞・桑名市教育長賞・桑名市観光協会会長賞などを受賞

12月11日から13日 中二 23名「伊勢研修実施」

伊勢神宮・伊勢市内・本居宣長記念館などを訪問

1月21日 第4回カリキュラム検討委員会開催

協議内容

- *道徳教育講演会の詳細決定
- *各校で実践した取組発表
- *指導案・授業の評価

1月22日 津田学園小学校にて津田学園中学校生徒による古事記・神話についての発表会

1月30日 道徳講演会実施

講師 國學院大學准教授 渡辺卓先生

参加者 中1から高1まで 301名参加

2月18日 第5回カリキュラム検討委員会

協議内容

- * 「我が国の伝統や文化に関する教育の充実に係る調査研究」のまとめについて

3月17日 道徳教育推進委員会&小中連携会議合同開催

協議内容

- * 成果物の検討
- * その他

(6) その他実施に当たって特筆すべき事項

3. 実施体制

推進校の報告書を参照

4. 今後に向けて

○アンケートの結果をしてみると、小学校では保護者とともに日本の伝統や文化に親しむ機会はあるが、中学・高校と年齢が進むにつれて『古事記』や「本居宣長」について学校以外で学ぶ機会は少なくなっている。保護者も神話などになじみのない世代となっており、学校で日本の伝統や文化に親しむ機会を作っていく必要がある。

○教科や校種間の連携を深めることで、児童の作品や中学生の探究活動に良い影響が出てくることが分かった。校種間の壁をなくすことはできないが、お互いの授業を参観したり、指導案を交換したりすることで少しでも壁を薄く低くし、児童生徒の発達に繋げたい。

○國學院大學、本居宣長記念館への訪問や、「みえ科学探究フォーラム」、「津田学園小学校」での発表は生徒の探究心を深めることに役立った。来年度はフィールドワークやポスター発表に参加する生徒を増やしていきたい。

○今回のカリキュラム例は校種や教科を横断したものになっていない。今後はその点を考慮したカリキュラム作成にも取り組んでいきたい

○授業をする中で生徒たちが地元の伝統や文化について知らないことが多いことに気付いた。地元の伝統や文化を学ぶ機会を設けていかねばならない。

○地域の団体などの支援協力などを仰ぐ予定であったが、それができておらず今後の課題となった。来年度は地域の祭りなどを調べる過程で連携していきたい。

「我が国の伝統や文化に関する教育の充実に係る調査研究」 完了報告書【実践校】

1. 実践校について（2019年4月1日現在）

学校名	津田学園小学校（つだがくえんしょうがっこう）							
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	2	12	21
生徒数	56	54	47	37	49	48	291	
学校のホームページアドレス	http://tsudagakuen.ac.jp/shougaku/							

学校名	津田学園中学校（つだがくえんちゅうがっこう）				
学年	1年	2年	3年	合計	教員数
学級数	1	1	1	3	10
生徒数	24	23	16	63	
学校のホームページアドレス	http://tsudagakuen.ac.jp/chugaku/				

学校名	津田学園高等学校（つだがくえんこうとうがっこう）				
学年	1年	2年	3年	合計	教員数
学級数	8	8	7	23	51
生徒数	240	273	194	707	
学校のホームページアドレス	http://tsudagakuen.ac.jp/koukou/				

2. 現状と課題

津田学園では道徳教育を教育の柱の一つとして重要視してきました。その目標は「先人のすばらしい生き方やその生きざまに近づこうとする」

「日本の歴史・文化・伝統を尊重する」

「人類愛の尊さや世界の人々との共生の大切さを学ぶ」

「国際社会の平和と人類の幸福に貢献する」

であり、杉原千畝や松浦武四郎、八田與一などに関する道徳学習を実施し、関係者の講演会を開催してきました。

また、津田学園では、文化庁が主催する「子供のための文化芸術による子供の育成事業」を活用し、能楽、邦楽、狂言など、伝統芸能の鑑賞・体験活動（H28年度「萬狂言による狂言」・H29年度「淡路人形座による人形浄瑠璃」H30年度「前進座による演劇」）を行ってきました。まだまだ鑑賞が中心となる受動的活動の面が強いことは否めないところですが、「事前学習・調べ学習」を踏まえ「振り返り」に至るといふ一連の流れの中で、一つひとつが生徒だけでなく教員にも深い感動を与えてくれるものとなっています。

さらに津田学園中学校では佐佐木信綱顕彰会が主催する佐佐木信綱顕彰正歌会にも毎年応募してきました。

しかしながらこれらは事前学習などに取り組みはするものの、鑑賞という受動的な学習活動で終結し、単なる作歌で終わってしまったのではないかと

反省があります。

そのような状況の中、令和時代を迎えその語源が国書にあることで俄然万葉集が世間の注目を集めることとなりました。この機会を逃すことなく、日本の古典や伝統文化に興味関心を持たせ、学び、発表させることで受動から主体的な学びに変化させたいと考えます。ただし、そのためには一足飛びに古事記や万葉集に取り組むのではなく、三重県の偉人である本居宣長の生き方や業績を学ぶところから始めました。

また、中学生が学校所在市である桑名市の歴史や文化についてフィールドワークなどを通じて学び、発表する取組も実施しました。

このような現状の中、主体的・対話的で深い学びが求められる今、積極的に校外に出て地域の中に息づいてきた伝統や文化を学び、それらを守ってきた人々の生きざまに触れることで、地域理解や日本の歴史・文化・伝統を尊重する心が育ち、道徳心も涵養できるプログラムについて研究・発表することができました。

3. 実施内容

(1) 計画の概要

【趣旨及び研究主題】

本学園が行っている道徳教育や古典芸能のワークショップや鑑賞も生徒一人ひとりにしてみればはるか遠い時代のもので、身近に感じることはできない様子が見て取れます。

そこで、研究主題を「日本の伝統や文化に誇りをもち、偉人や地域を通して「古事記」や「万葉集」を学び、外に向かって発信できる生徒の育成」としました。

【内容】

- 1、 三重県出身の偉人の一人である「本居宣長」を通して日本誕生の物語である「古事記」への興味関心を深めた。
- 2、 フィールドワークや調査活動で得られた内容を中学高校合同の探究活動発表会で発表し、次への課題を見つけた。

以上2点を取組の柱として研究を行った。

なお、各事業に取り組むに当たっては「本居宣長記念館」、「桑名市観光文化課」、「桑名市教育委員会」などのメンバーを交えてカリキュラムの検討（カリキュラム検討委員会）を行い、研究を深めた。

(2) 具体的な実施内容

【具体的内容について】2019年度

【小学校】

「国語」の時間に古事記について学習し、神話や伝承などから当時の人々の考え方や物の見方などに気付かせた。（4年生・5年生）

「総合的な学習の時間」に併設の中学生から古事記についての探究活動の発表を聞いた。発表後に様々な質問が小学生から出されたが、それをいったん持ち帰り、後日文書で小学生に伝えた。

津田学園中学校による「古事記」の探究活動の発表会を終えて、小学生から出された質問に対して、中学生の探究グループの生徒が後日調べて文書で答えた。

○Q1 「なぜ、柱という呼び方になったのか。」

●A1 柱は「木」と「主」という字からできています。「主」には「そこにじっと立っている・支える」という意味があります。「木」については、昔から神は樹木に宿ると考えられています。そこから神に敬意を払い「柱」と数えるようになったという説があります。

○Q2 「この世には何柱の神様がいますか。」

●A2 数えきれないほどの神々がいますと考えられ、そこで「八百万」の数とよばれます。「八百万」は800万という数ではなく、とてもたくさんという意味です。

○Q3 「古事記は本当の話か。物語なのか。」

●A3 本当の話もあれば、物語もあります。

○Q4 「古事記の話は何年前の話か。」

●A4 神武天皇が即位したのが約2700年前で、それよりさらに古い時代の話もたくさんあります。

○Q5 「なぜ、古事記は書かれたのですか。」

●A5 神々や天皇の歴史を後世に伝えるため。天皇が国を治めることの正統性を示すためなどと考えられています。

○Q6 「古事記の中で最も古い話は何ですか。」

●A6 国生みの話です。

○Q7 「スサノオノミコトの八岐大蛇退治で行った作戦を具体的に教えてください。」

●A7 ヤマタノオロチにお酒を飲ませて酔ったところを攻撃するという作戦です。

○Q8 「素戔嗚尊はどうして父の命令を聞かずに暴れたのですか。」

●A8 スサノオは子どもっぽさが残り、わがままな部分があったようです。

○Q9 「なぜ、そんなに神を産めるのですか。」

●A9 神は「生まれる」という考え方と「成る（宿る）」という考え方があるようです。「成る」というのは、木・山・石・海などあらゆるものに宿ります。そういった考えがあり、自然の中に神が生まれるのです。

○Q10「草薙の剣は何に使ったのですか。」

●A10 草薙の剣は、スサノオはヤマタノオロチを退治したとき、大蛇の体内から見つかったとされる神剣です。のちに、この剣を手にして東国に遠征したヤマトタケルは敵にだまされ草むらで火に囲まれてしまいました。そのとき、この剣で火を薙ぎ払ってヤマトタケルは助かりました。

○Q11「アマテラスがあげていた食べ物は何かですか。」

●A11 現在外宮で1日2回行われている「日別朝夕大御饌祭（ひごとあさゆう おおみけさい）」という天照大御神にお食事を奉る神事では次のようなものがあります。御飯三盛、かつお節、魚、海草、野菜、果物、御塩、御水、御酒三献と品目が定められています。

○Q12「ヤマトタケルの墓はどこにあるのですか。」

●A12 三重県亀山市の能褒野というところにあります。

○Q13「スサノオやツクヨミ、アマテラスの名前の由来は何ですか。」

●A13 スサノオ：

「須佐之男」「素戔嗚尊」などいくつかの表し方があります。父のイザナギから海を治めるように命じられましたが、従いませんでした。

ツクヨミ：「月読」と表したり、「月夜見」と表したりします。夜の世界を治める神です。

アマテラス：神々の世界を治める神、太陽神などで「照」とう字が用いられています。

感想（発表会の後に児童が書いた感想文から抜粋しました。）

【4年生】

- ・たくさんの神話があることに驚きました。
- ・古事記のことを全く知らなかったが、今回で古事記を覚えておいたほうがいいと思いました。
- ・図書館にあるのでまた借りてみたいと思いました。
- ・昔の人の考え方が学べました。
- ・知らないことがたくさんあって驚きました。
- ・古事記についてもっと調べてみたくなりました。
- ・特に調べてみたいのは「天の岩山」です。
- ・分かったことを親にも話しました。

- ・おもしろかった話は海幸彦と山幸彦の話でした。
- ・どのように国が生まれたのか分かりました。

【5年生】

- ・神様の数え方が「人」ではなく、「柱」ということを初めて知りました。
- ・中学生の人も言っていたけれど、古事記のお話が浦島太郎や鶴の恩返しなどの昔話に似ていて面白いと思いました。
- ・古事記はすべて訓読みにして読むと古事記の名前の意味が分かったので、きちんと考えて名前を決めたということが分かって納得しました。
- ・今回の発表で、僕が知らない神々の名前やそれぞれの話の内容が詳しく書かれていて分かりやすかった。
- ・「どうして「古事記」が書かれたのか知りたいと思いました。
- ・三重県の「三重」の由来がヤマトタケルの足が三重に折れ曲がったからだということを初めて知りました。

「図画工作」の時間にそれぞれが選んだ古事記の一場面を絵画表現した。

「社会」の時間に歌舞伎や浮世絵、国学や蘭学を手掛かりに、町人の文化が栄え新しい学問がおこったことを理解させた。

【中学校】

「道徳」の時間に「本居宣長」について学習し、日本の伝統文化を大切にし、社会に尽くした先人に尊敬の念を深め、郷土を愛し進んで郷土の発展に努める心を涵養した。

「国語」、「社会」の時間に「古事記」について学習し、古事記にまとめられた神話・伝承などの学習を通して、当時の人々の信仰や物の見方などに気付かせた。

「桑名の祭」、「桑名の歴史的建造物など」についての調査研究を班別に行い、桑名北ロータリークラブ主催の「桑名の宝物」作品募集に応募し発表することで郷土の伝統と文化を尊重し、郷土を愛する態度を育てた。

國學院大學古事記学センターを生徒3名が高校の生徒2名と教師3名で訪問し、関連資料に触れつつ『古事記』、『古事記伝』の意義や研究史、本居宣長の功績や生き方について國學院大學渡辺先生から学んだ。

本居宣長記念館を見学し『古事記』本居宣長について理解を深めた。

國學院大學渡辺准教授を招き、『古事記』本居宣長についての講演会を開催した。

みえ科学探究フォーラム 2019 で「神々への信仰の地域性について」ポスター発表を行った。

【高校】

総合的な探究の時間に「本居宣長」、「古事記」について学んだ。

國學院大學古事記学センターを生徒 2 名が中学生 3 名と教師 3 名で訪問し、関連資料に触れつつ『古事記』、『古事記伝』の意義や研究史、本居宣長の功績や生き方について國學院大學渡辺先生から学んだ。

國學院大學渡辺准教授を招き、『古事記』本居宣長についての講演会を開催した。

みえ科学探究フォーラム 2019 で「三重を背景とした『古事記』と『日本書紀』における比較分析について」ポスター発表を行った。

(3) 成果の検証

【小学校】

保護者及び児童に児童が学習前と学習後にどのような変化が見られたかを中心にアンケートを取った。

【中学校】

事業後に生徒に対して事業前後の自らの我が国の伝統や文化に対する意識変化についてのアンケートを取った。

【高校】

事業後に生徒に対して事業前後の自らの我が国の伝統や文化に対する意識変化についてのアンケートを取った。

(4) 実施スケジュール

【具体的内容について】

【2019 年度】

9 月 8 日 第 1 回カリキュラム検討委員会開催

協議内容

- * 学校から伝統や文化に関する教育の充実についての方針説明
- * 伝統や文化を継承していく上での課題点などについて協議
- * 指導案の検討
- * その他

10 月 19 日 「桑名の歴史探訪開催」

津田学園中学校の生徒が史跡を巡りながら 桑名市内の歴史について学んだことを参加した小学生に説明。

参加者 小学生 24名 中学生 16名

10月23日 國學院大學研究開発機構古事記学センター訪問

参加者 中学生 3名 高校生 2名 教員 3名

11月12日 第2回カリキュラム検討委員会開催

協議内容

*各校で実践した取組発表

*指導案・授業の評価

*その他

11月から翌年2月にかけて中学校・高等学校「道徳」の時間で『古事記』、「本居宣長」について学んだ。

小学校4年生では国語の時間に「いなばのしろうさぎ」について

5年生では「社会」の時間に本居宣長らについて学んだ。

12月5日 第3回カリキュラム検討委員会開催

協議内容

*道徳教育講演会の概要説明

*各校で実践した取組発表

*指導案・授業の評価

*その他

12月7日 「桑名の宝物」発表会

桑名北ロータリークラブ主催の「桑名の宝物」発表会に参加。

桑名市長賞・桑名市教育長賞・桑名市観光協会会長賞などを受賞

12月11日から13日 中二 23名「伊勢研修実施」

伊勢神宮・伊勢市内・本居宣長記念館などを訪問

1月から2月にかけて津田学園小学校4,5年生の図画工作で『古事記』に関する絵を制作

1月21日 第4回カリキュラム検討委員会開催

協議内容

*道徳教育講演会の詳細決定

*各校で実践した取組発表

*指導案・授業の評価

1月22日 津田学園中学校の探究基礎歴史グループの生徒8名が「古事記・神話」に関する発表を、津田学園小学校4,5年生を対象に実施

1月30日 道徳講演会実施

講師 國學院大學准教授 渡辺卓先生

参加者 中1から高1まで 301名参加

2月18日 第5回カリキュラム検討委員会

協議内容

*「我が国の伝統や文化に関する教育の充実に係る調査研究」のまとめについて

2月22日 小学校での学習発表会で「古事記」について発表

3月17日 道徳教育推進委員会&小中連携会議合同開催

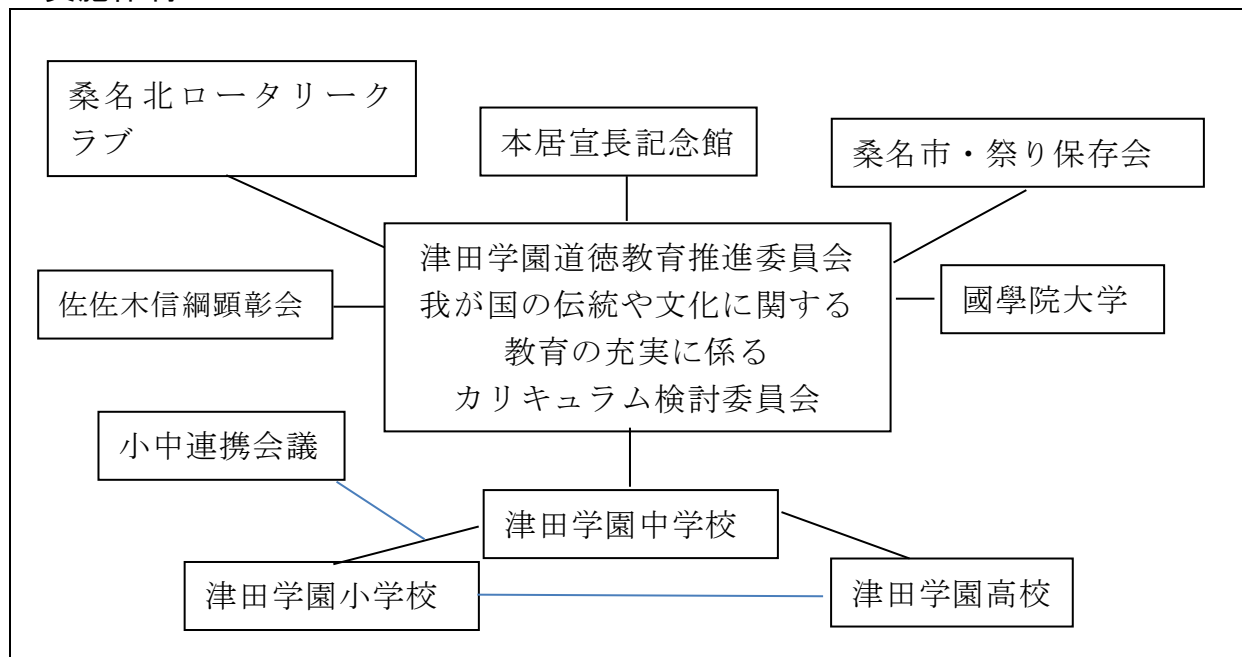
協議内容

* 成果物の検討

* その他

(5) その他実施に当たって特筆すべき事項

4. 実施体制



5. 今後に向けて

○アンケートの結果をしてみると、小学校では保護者とともに日本の伝統や文化に親しむ機会はあるが、中学・高校と年齢が進むにつれて『古事記』や「本居宣長」について学校以外で学ぶ機会は少なくなっている。保護者も神話などになじみのない世代となってきており、学校で日本の伝統や文化に親しむ機会を作っていく必要がある。

○教科や校種間の連携を深めることで、幅広く教育内容を検討することができた。校種間の壁をなくすことはできないが、お互いの授業を参観したり、指導案を交換したりすることで少しでも壁を薄く低くし、児童生徒の発達に繋げたい。

○國學院大学、本居宣長記念館への訪問や、「みえ科学探究フォーラム」、「津田学園小学校」での発表は生徒の探究心を深めることに役立った。来年度はフィールドワークやポスター発表に参加する生徒を増やしていきたい。

○今回のカリキュラム例は校種や教科を横断したものになっていない。今後はその点を考慮したカリキュラム作成にも取り組んでいきたい

○授業をする中で生徒たちが地元の伝統や文化について知らないことが多いことに気付いた。地元の伝統や文化を学ぶ機会を設けていかねばならない。

